



# 三陸ジオパーク

その2

釜石のジオサイトを詳しく知ろう！

問い合わせ 市商業観光課 観光おもてなし係 ☎27-8421

## 釜石のジオサイトの特徴

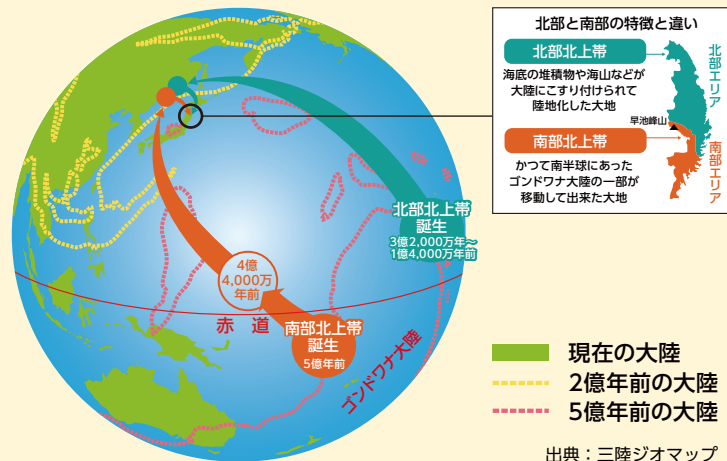
三陸ジオパークは地球の成り立ち（地質）、それを活用した人間の営み、自然災害の記憶の三つをテーマとしています。釜石地域は、北部北上帯と南部北上帯という性質の異なる2種類の地域からなる北上帯の境目に位置しているため、北部と南部とその境目の特徴がみられるジオサイトがあり、その起源は約5億年前に遡ります。また、釜石鉱山など地質を活用した産業の痕跡や津波記念碑などが、人間の営み、自然災害の記憶をテーマとするジオサイトに登録されています。

## 三陸の成り立ち

釜石や早池峰山周辺を境とする地質的な三陸の南部（南部北上帯）と北部（北部北上帯）では成り立ちが大きく異なります。

釜石の橋野や大橋を含む南部は、約5億年前の Gondwana 大陸の一部で赤道の近くにありました。箱崎や平田を含む北部は、約3億2,000万年前の海底にあった堆積物などが移動したものです。その二つの大地が地球のプレート運動により移動してアジア大陸で出会い、その後、大陸から日本列島が分離し隆起や浸食により三陸が形作られました。

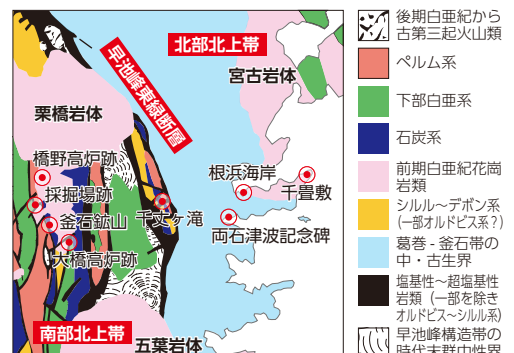
そのため、三陸地域の西側には1,000m級の山々が連なる北上山地、東側はリアス海岸が広がっています。



## 釜石の地質

釜石地域の中央をほぼ南北に貫く早池峰東縁断層を境に、北部北上帯と南部北上帯が広がります。この断層の影響で三陸地域の中でも山が急峻となっています。

約1億2,000万年前の白亜紀には、橋野、箱崎、五葉山の周辺にマグマが上昇。大橋や橋野ではもともとあった石灰石などの堆積岩が熱で変成し、鉄鉱石や銅鉱石ができました。マグマが冷えてできた花崗岩は、高炉の石材として利用されました。このように、鉄などの鉱石が採れるのは、地球の運動が関係しているのです。



## 釜石の北部北上帯ジオサイトを二つ紹介します

せんじょうじき

**千畳敷** 久慈から箱崎に至る沿岸では、約1億2,000万年前の白亜紀にマグマが上昇し、それが固まって花崗岩帯を形成しました。その中でも千畳敷は、その名のとおり白い畳を敷きつめたような岩場に、太平洋の波が打ち付ける絶景を織りなしています。

ここから「ひょっこりひょうたん島」のモチーフの一つとなった国の天然記念物「三貫島」も眺めることができます。

場所：箱崎町

アクセス：箱崎白浜から大沢遺跡駐車場まで車で約20分、そこから徒歩約50分



根浜海岸（平成20年撮影）



千畳敷

ねばまかいがん

**根浜海岸** 鵜住居川の河口に位置する根浜海岸は、白い砂浜と青々とした松林の美しい海岸でした。東日本大震災により美しい景観が失われましたが、砂浜の復旧や松の植林で以前の姿に戻り取り組みが続けられています。

この砂浜が白いのは、鵜住居川上流の花崗岩帯が浸食、風化して堆積したためです。また、磁石を用いて砂鉄が採集できるのは、花崗岩に含まれた砂鉄も同様に堆積したためなのです。

周辺の露出した岩盤は1億～3億年前の中生代・古生代の地層で、海にすむ放散虫（プランクトン）などの死骸が海底に堆積してできたチャート（岩石）などが見られます。

場所：鵜住居町

アクセス：鵜住居駅から車で約5分

